

の御茶湯也、人々座敷にありけれども、短檠の火もなく、釜のにへをとのみにて、いかにもまづまづとしたる様體也、いかなる御作意ならんとおもひ居ける折柄、利休の居られしうしろの障子ほのく、とあかくなるを不思議におもひ障子をあけられければ、月影あかく、御座のうちにはのぼのと移るまゝに、さればよと思ひにじりよりて見れば、小倉色紙の御かけもの也、その歌に、

ほとゝぎす鳴つる方をながむればたゞ有明の月ぞ残れるとある、誠に折にふれ、おもしろき事いはんかたなし、其時利休その外の人も、さても名譽不思議の御作意かなと、同音に感じ奉る、〔槐記〕享保十三年三月廿二日、參候昔ノ茶湯ニハ墨跡バカリニテ、歌ノモノヲ掛クルコトハ、利休ガ時分ニ、或茶人ガ利休ヲ請招シテ行カレシガ、中クバリヲ開タレバ、草茫々トシテ、飛石モミヘガタキホド也、如何ナルワザニヤト推シテ、漸々ニ草カキ分テ入ラレシガ、鉢前ハイトキレイニ掃除シテアリケル故、イカニモ分アリケリト、中ニ入テ床ヲ見ラレタレバ、其家ノ重代ニ、定家ノ小色紙ヲ所持シタリシガ、此色紙ガ八重むぐらノ歌也、シカバ、利休モ尤モナリト感ジタリシガ、此レ歌ノカケモノ、掛初メ也ト申ス、御前近衛家照ノ御説ニハ、利休ガ太閤秀吉ヲ請招シテ、初テ定家ノ小色紙ヲ掛タリ、其歌ハ、天原ふりさけみればノ歌也、秀吉ノ不審ナリシニ、利休ガ返答ニ、此歌ハ日本人ガ唐ニテ讀テ、月一ツニテ世界國土ヲ兼テ讀盡シタル歌ナレバ、大燈虛堂ニモヲトルベカラズト申シ上シヨリ、歌ノモノ掛タルト御聞ナサレシ由仰ナリ、

〔老の波〕作意なしに茶たてよ、法に隨へとはいへど、又琴柱にかはする事は、いと風流を失ふ事なり、作意新意も其出る所おもしろがらせんと、例の輕薄の情より出ては、いと拙くして、はてはいかに流れゆかむも知るべからず、只我物になすべきなり、我ものになせば、臨機應變其程を得るなり、略中森口といふ所にわび人あり、宗易知人なりけるにぞ、ある冬の夜、ふと夜ふかく立よ